

第2章 いじめの未然防止

1 学級づくり、集団づくり（小学校編）

1 学級目標づくりと学級ルールづくり ～温かい人間関係・支持的風土のある学級をベースに～
いじめを生まない学校にしていくには、全ての学校で温かな人間関係に支えられた支持的な風土を醸成することが重要である。

学級目標や学級ルールには、学習規律や基本的なあいさつ、話す・聞く態度など教師が指導するものと、よりよい学級（目の前の諸問題を解決できる学級）にするために主体的に考えるルールや係活動、イベント活動など児童から生まれるルールがある。

学級目標づくりにおいて教師が児童に伝え、必ず確認する必要があるものとして、

①友達を大切にす → 「いじめは犯罪であり、人権侵害である」ことを確認する。

②命を大切にすして行動す → いじめや危険な行動をしない・させない・見逃さない。

の2つがある。これは折に触れ、教師が児童に繰り返す、指導する内容でもある。

こうした指導のもと、児童がよりよい、そしていじめを生まない学級にするために学級目標やルールについて話し合い、確認し合うことが望ましい。また、つくって終わるのではなく、学級が目標に近づいているかどうかを定期的に学級会や自他評価等で点検すること、何か問題が起こった時には、学級の実態に即してルールを改善する機会を設けることが必要不可欠である。自治的な力を高める学級活動を行うことが、児童の規範意識や責任感を醸成する。

そのためにも、児童自身の問題への気付きから、現状を確認し合い、話し合い、主体的にルールを見直す活動が必要である。

定期的に目標やルールを振り返る学級会を実施。提案は児童と共に検討し、議題にする。

活動例 定期的に学級のルールを振り返ろう

	学習活動	留意点等
準備活動	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事、イベント、日常活動等を通して、気付いたことを記述し、議題箱に入れたり、アンケートを実施したりする。 ○話し合う内容の柱を学級に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートや児童の気付きから議題が生まれる。 ・準備期間に、配慮すべき児童に寄り添い、思いや願いを丁寧に聞き取る。
本時	<ul style="list-style-type: none"> ●アンケート結果から「これっていじめかもしれない」という気付きが生まれた。 ①議題とめあての確認、提案理由の説明。 ②学級目標と学級のルールの確認。 ③小グループでの話し合い。 解決策をミニボードに書き出す。 ④全体での話し合い。 ⑤話し合いや自分の行動について振り返り、一人一人が新しいめあてを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事実の確認と解決に向けた意思や行動の確認を事前に行う。 ・良し悪しだけでなく、それぞれの立場に寄り添いつつも、学級目標に立ち戻るように声かけする。 ・児童から「いじめは犯罪であり、人権侵害であること」「いじめをしない、見逃さない」につながる気付きが出ることを期待する。 ・教師は、児童の気付きや話し合いの流れを大切にすし、価値を押し付けることはしない。 ・誰もが加害者、被害者になってしまう可能性があることを確認し、自分事として記述する。
事後活動	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返り活動や事後の活動の中で、自分や友達のよさを見つけ、称賛する。 ○係活動等において、めあて達成のためのイベントや取組を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確認された目標やルールを、個人のめあてや今後の活動における目標、次回学級会へとつなげていく。（PDCA） ・配慮すべき児童の見取りや相談活動を継続して行う。

2 よりよい人間関係の形成を目指す学級づくり

学級においては、日々の教育活動の中で「自分が大事にされている、認められている」等の存在感が実感でき、かつ精神的な充実感を得られることが重要である。そのためにも、児童一人一人が自らの役割や存在感を実感したり、豊かな人間関係の中で互いのよさを見いだしたりすることのできる学級づくりが必要である。「ハッピーバースデー」の活動は、学級の一人一人の児童が主役となる日であり、命の大切さ



について考え、実感する時間となる。また、「いいところさがし」で互いに認め合う活動を繰り返す中で、友達よさに目を向け、それを日常的に伝え合う風土が醸成される。

活動例(1) ハッピーバースデー ～一人一人が特別な存在～

	学習活動	留意点等
準備活動	①バースデー自己紹介カードの作成 ②係活動；誕生日係 →誕生日カレンダーや掲示物の作成、 誕生会の内容の決定	<ul style="list-style-type: none"> 誕生会の様子を随時、写真とともに便りや連絡帳などで保護者に伝える。
給食時	①給食の時に、誕生日係が黒板にお祝いのメッセージを書いたり、紙製のバースデーケーキを用意したりする。 ②誕生日の歌の後に全員で「おめでとう!! ～乾杯～」 「ありがとう。これからもよろしくね」をして、拍手をする。 ③誕生日の児童は、牛乳で一人一人と乾杯し、お祝いのメッセージをもらう。	<ul style="list-style-type: none"> 学級全員の誕生日が掲示してあることで、次は誰への言葉がけを準備するのかが等、見通しが立てやすい。 家庭環境への配慮が必要となるが、事前に保護者からメッセージをもらっておき、教師が代読することも効果的である。 長期休み中に誕生日が来る場合には休み前に実施する。 お祝いメッセージの例文やふわふわ言葉を学級に掲示しておく。

活動例(2) いいところさがし ～自己理解と他者理解～

	学習活動	留意点等
1次	①自分のよいところを5つ書く。 ②ふわふわ言葉集め ③リフレーミング辞書づくり ④いいところリストを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> なかなか書けなかった体験が友達や自分のよさへ目を向ける意欲や活動後のより深い自己理解へとつながる。
2次	①4人グループとなり、リストやリフレーミング辞書を使いながら自分たち以外のグループのメンバーのよいところ探しをする。 ②書いてもらった自分のよいところを読んだ感想や活動全体を通しての気づきを書き、発表する。活動内容と感想を便りなどで配付し、保護者と共有する。	<ul style="list-style-type: none"> 長所を表現する言葉を増やす活動を多く取り入れることが重要。 ③の「リフレーミング辞書」とは短所や気になる点を、視点を変えて長所やよさを表現する言葉にするもの。 例) さわがしい→元気がよい、おしゃべり→人付き合いが上手 等々 グループで活動することで、安心感や積極性が高まる。また、同じFさんのよさを考える中で、友達との違いや共通点などを感じることができる。 保護者からも「お子さんのよさ」として記述してもらうことも効果的。

*参考文献 「エンカウンターで学級が変わる 小学校編」国分康孝監修 岡田弘他編集 (図書文化)

「エンカウンター学級づくりテキスト2 よりよいかかわりを生むエクササイズ集」八巻寛治・吉澤克彦編 (明治図書)

- 学級目標やルールは、PDCAのCが大切。定期的に振り返りを行う場を設定し、担任が臨機応変に、そして全力で取り組む。
- 学級に温かな人間関係に支えられた支持的な風土を醸成する。そのためには、意図的・計画的に児童生徒に働きかけ、具体的な活動を起こすことが必要。